「平成２８年度　第１回座間市総合教育会議」　会議録

１　日　時　平成２９年２月１４日（火）　１０時～１１時３０分

２　場　所　市民文化会館（ハーモニーホール座間）大会議室

３　構成員

遠藤市長、馬場教育委員長、小井田教育委員長職務代理者、鈴木教育委員
滝教育委員、金子教育長

４　事務局及び教育委員会職員

企画財政部長、企画財政部参事兼企画政策課長、企画政策係長、主事２名、渉外課長交流・基地対策係長、教育部長、教育総務課長、教育総務課技幹兼施設係長、学校教育課長、保健給食担当課長、教育指導課長、教育研究所長、生涯学習課副主幹兼生涯学習係長、図書館長

５　傍聴人　１３人

６　議　題

＜報告事項＞

⑴ 郷土愛の愛と誇りを育む「郷土の先人に学ぶ」について

⑵ 国際親善大使について

《開会》

（企画政策課長）

会議の開会に先立ちましてお伝えする事項がございます。本日の総合教育会議の傍聴につきまして、１２名の方から会議傍聴の申し出がありました。本会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１条の４第６項の規定により、非公開とする必要がある場合を除いて公開とされております。また、「座間市総合教育会議設置要綱」第４条の規定により、議長がこれを許可するものとしておりますので、まず、この会議の主宰者である市長から本日の会議傍聴の許可につきまして、お諮りいただきたいと存じます。

（市長）

それでは、本日の次第案件について、傍聴を許可したいと思いますが、委員の皆様、これに御異議ありませんか。

〈※異議なしの声〉

（市長）

傍聴を許可します。

傍聴者の入室を誘導してください。

（企画政策課長）

皆さまこんにちは。

それでは、ただいまから、平成２８年度第１回座間市総合教育会議を開会いたします。

次第２、本日の案件でございますが、報告事項が２件ございます。

本会議は座間市総合教育会議設置要綱第３条の規定により、市長が議長になることとしておりますので、以後の進行は市長にお願いしたいと思います。

市長、よろしくお願いします。

（市長）

議題に入る前に、一言御挨拶を申し上げたいと思います。本日は平成２８年度第１回座間市総合教育会議の開催にあたり、委員の皆様におかれましては、会議に御参加いただき、また多くの傍聴者の皆様にも御参加いただきましたことを感謝申し上げたいと思います。

本会議は、昨年度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い設置されたものです。総合教育会議は、地方公共団体の長が召集し、教育に関する大綱の策定、教育の状況整備等、重点的に講ずべき施策、そして児童、生徒等の生命、身体の保護等緊急の場合に講ずべき処置等として、首長と教育委員会等が同じ方向性の下、相互に連携して効果的に教育行政を推進していくために、協議、調整を行う場として設置されたものです。昨年度は、５回開催させていただき、座間市教育大綱の策定について、委員の皆様のお力添えをいただきました。

本市におきましては、常日頃から市長部局と教育委員会とが密接に連携をとっており、また、今年度については、調整すべき事項は特になかったことから、年度末のこの時期に初回の会議を開催することとなりました。

本日は２件の報告事項があります。委員の皆様におかれましては、専門的な見識から、また、日頃から教育行政に携わっておられる経験を元に、これからの座間市を担っていく子ども達と未

来のため、そして現在、本市で生活を営んでいる全ての市民の皆様の健やかな生活等のために、活発な議論、御意見をいただければと思います。

はじめに、案件⑴　郷土愛の愛と誇りを育む「郷土の先人に学ぶ」について進めて参ります。

（委員）

それでは、私から作成の経緯についてお話させていただきます。

座間市教育委員会では、平成２３年３月に「豊かな心を育むひまわりプラン」を策定しました。これは１０年間に亘るプランであり、この中に「こんな大人になってほしい」という項目があります。１つ目は「自分のよさを大切にし、健康で自立した生活を送る」、２つ目が「正義を尊び、自らを律し、責任ある行動をとる」、３つ目が「目標に向かって学び続け、新たな価値を創造する」、４つ目が「温かな心で人とかかわり合い、奉仕の心で人の役に立つ」、５つ目が「郷土への愛と誇りをもち、国や社会の発展に尽くす」です。豊かな心を育むために、実際どのような手立てをもって取り組めば良いのか、そのひとつとして、郷土座間にゆかりのある人々の中から目指す大人としてふさわしい人々を選び、その人々の豊かな心を紹介する本を作ることになりました。小中学生の皆さんが、郷土の先人の志や生き方を引き継ぎ、自分自身の心を豊かに発展させていけたら良いと、そんな思いで作成しました。郷土の先人は、全国的に有名な方ではありませんが、座間において、地域づくりのために、そして社会のために尽くされた、子ども達にとって身近な存在であることから、学ぶことは非常に多いと思います。

（教育研究所長）

「郷土の先人に学ぶ」のこれまでの経緯や内容について御説明いたします。

「郷土の先人に学ぶ」は、座間の先人達の業績や人間性にスポットを当てて書かれた、座間市の小中学生のための副読本です。座間の子ども達に郷土座間を愛する心を育てて欲しいという願いを込めて作成されております。

作成にあたり、現教育委員長の馬場悠男先生、元教育委員の小野田順子先生や市内小中学校の教員の皆さんが教育研究所の教育課題研究員として執筆しております。

挿絵は、東原小学校長の有山周一先生、元教育委員の小野田順子先生、市内中学校の美術科教員が担当しております。座間の子どものための副読本を座間の教育や子どもに関わる人達が力を合わせて作り上げている、これが「郷土の先人に学ぶ」です。こういった副読本は、近隣市の中でもあまり例がなく、座間市の特色ある取組といえるものです。現在、「郷土の先人に学ぶ」は、小学校６年生、中学校１、２、３年生に配布されています。学校では道徳をはじめ、総合的な学習の時間等で先人の生き方を学び、これからの自らの生き方、行動等に活かすといった活用をしております。

発刊の流れといたしましては、まず、平成２６年７月に鈴木利貞氏、庵政三氏の２名について

書かれた第１版を発刊いたしました。続いて平成２８年４月に高松ミキ氏を加えた第２版を発刊いたしました。さらに、これから平成２９年４月には本多愛男氏と村上ミキ氏を加えた第３版を発刊する予定です。この５名の先人について簡単に御紹介いたします。まず鈴木利貞氏についてですが、明治の中頃、座間の青少年自治活動を行い、幼年会の発足に大きな役割を果たされた方です。その後、青少年教育に大きな情熱を傾け、幼年会の「自分達のことは自分達の手で」という考えや「柿の木の下の誓い」の精神は、現在のひまわりプランで示されております「ざまっ子八つの誓い」にも受け継がれています。続いて、庵政三氏は昭和２０年代から４０年代にかけて座間市入谷に内科・小児科の医院を開き地域医療に尽くされた方です。医者としての力もさることながら、診察代が払えないような貧しい患者にも分け隔てなく、また昼夜を問わず献身的に医療を施し、地域住民から信頼と尊敬と感謝を受け、亡くなった後には胸像がたてられるほどでした。さらに第２版に登場しました高松ミキ氏は、大正時代に座間村女子青年会の育成に尽力された方です。まだ封建的な部分が残る時代に女子青年会の活動をよびかけ、熱意と努力により座間村女子青年会の会員数を増やし、講演会・講習会・研究発表会・会誌「あを雲」の発行など多岐にわたる活動を行いました。その活動が認められ、座間村女子青年会は模範青年会として時の文部大臣から表彰を受けました。この会の中心となった人物が高松ミキ氏です。続いて、平成２９年度４月に発刊予定の２人ですが、まず座間市大凧保存会の会長でありました本多愛男氏です。皆さま御存じのように、本多氏は座間市長でもありました。戦後の青少年団活動の１つとして、大凧揚げを推進し、郷土座間がみんなで心を１つにして取り組めるものとして、後世に伝えようと力を尽くされました。現在、「座間大凧まつり」は国の無形民俗文化財に選定され、伝統行事として毎年盛大に開催されておりますが、その礎を築いた方の一人です。最後に村上ミキ氏ですが、明治から大正にかけて、アメリカに移住し、夫婦でホテル経営をし、成功を収められました。第二次世界大戦後に一時帰国した際、郷土座間の教育環境が十分でないことを知り１，０００ドルをはじめ多額の寄付を行いました。その寄付の一部をもとに購入されたグランドピアノが、現在も栗原小学校に置かれています。その後も亡くなるまで、郷土座間とそこで育つ子ども達を気にかけられ、クリスマスやお正月といった節目には寄付やプレゼントを送り続けました。アメリカで亡くなった際、現地の邦人向け新聞に「まれにみる徳行の人」と紹介されました。

今後は「栗原大尽」として知られる大矢弥一氏、郵便・電話事業に尽力した瀬戸吉五郎氏といった先人達について作成していく予定です。

（委員）

「郷土の先人に学ぶ」について私も関わらせていただきました。私は東京の生まれですが、１歳から座間市に住んでおりまして、この第２話の庵先生の隣に住んでいたため、教育委員になり１番最初に鈴木利貞先生と庵先生の名前が出てきて驚きました。内容については、元々学校の先生に書いていただくつもりだったのですが、庵先生の３人のお子様のうち、長男の方に色々なこ

とを教えていただきたいと金子教育長と２人でお会いした際に、私が書くように言われ、私が書かせていただくこととなりました。鈴木利貞先生の話を学校の先生に書いていただくに当たってもお手伝いさせていただきました。村上ミキさんのお話についても驚いたことがありました。戦後、貧しい座間のために色々してくださった方なのですが、私が小学校の時に、先生から生徒達に渡されたプレゼントが村上ミキさんからの物でした。

これらの偶然があり、このようなすばらしい先人がいるところで育ち、こういう仕事をさせていただいているということに感謝しています。

（委員）

前職で座間の人物遍を編集しようと、５０人程ピックアップしたことがあります。その後異動となってしまったのですが、このようなものができ、非常に嬉しく思います。南中学校で「郷土の先人に学ぶ」を使った道徳の授業を見る機会があったのですが、「豊かな心を育むひまわりプラン」をどのようにして今後推進していくのか、また、子ども達にどう伝えていくのか、という答えを出してくれたすばらしい授業だったと思います。「道の会」という団体で理想的な社会づくりを目指す幼年会を研究し、その研究成果も刊行されているのですが、その中で会員の一人から、「学んだことをいかに現在、そして未来に活かすかということに視点を向けてみることが必要である、新しい社会を創る子ども達に幼年会の心を伝えていく方法はないのだろうか。」という話がありました。

（委員）

「郷土の先人に学ぶ」が発刊される前の道徳の授業では、伝記を使った授業の後、子ども達に座間市には偉い人はいないのかとよく聞かれました。中学年の社会科の副読本の中で幼年会の鈴木利貞さんの話は出ていますが、あくまでも歴史的なさわりのみの内容で、人物像としてのインパクトが薄かったと思います。このことに関しては、子ども達が非常に強い関心を持っていると感じ、子ども向けの良い教材があればと思いました。「郷土の先人に学ぶ」は、待ちに待った教材です。郷土の偉人は子ども達にとってのヒーローです。この先人達の生き方は子ども達の生き方につながるだけではなく、郷土愛を育むためにも有効な資料だと思います。

（相武台東小学校長）

私からは「郷土の先人に学ぶ」を学校で活用した結果を御報告いたします。

現在、相武台東小で校長を務めておりますが、平成２６、２７年度は南中学校で教頭を務めており、その時に郷土の先人についての授業を行いました。今年度は、１０月に６年生を対象としてこの授業を実施しました。この副読本を使って良かったと感じたことですが、子ども達にとって、この座間という市がどのような市なのかが分かったということです。

また、授業を受けた６年生の子ども達に、この副読本の中で心に残った言葉を書きだしてもらいましたので、いくつか御紹介させていただきます。一人目は鈴木利貞さんの「子ども達こそが将来の座間村を創る」という言葉が心に残ったそうです。どうしてそれが残ったのかというと「理想の座間村は今の子供達が作るのだという願いを込めているのだと思います。私は、この言葉で座間に対する考え方が変わりました。ふるさとだから、で協力するのではなく、もっと過ごしやすい座間に、と考えようと思いました。理想の座間に近づけるように、大人になっても座間に協力したいと思いました。」と書いていました。二人目は「自分達の村は自分達で良くしていこう。」という言葉が心に残ったそうです。どうしてその言葉を選んだのかというと「自分達のことは自分達で良くしていこう、という考えがすごいと思ったからです。人任せにするのではなく、自分達の力で村を変えていこうという努力が伝わってきました。」と書いていました。

加えて、子ども達に日頃の学校生活で何ができるのか、というところにも目を向けて欲しかったので、卒業までの５か月で何をしていきたいのかについても書いてもらいました。その中で、「この５か月の間に下級生のお手本になり、分からないところは優しく教え、思いやり、笑顔、あいさつをたくさん振り撒きたいと思いました。鈴木利貞さんの「子ども達こそが将来理想の座間村を創る人材だ。」という言葉は学校に例えると「下級生達こそが将来理想の学校を創る人材だ。」ということになり、今の下級生達に理想の学校を創ってもらうためにも、手本になりたいです。」と書いていた子どもがいました。

「豊かな心を育むひまわりプラン」の中に「こんな大人になってほしい」「ざまっ子八つの誓い」があります。これが各学校の教室に掲示されています。特に「ざまっ子八つの誓い」は、本校ではどの教室にも掲示しています。この言葉は今まではただの掲示物でした。しかし、事業を実施したことによって、色々な意味があってここに掲示されているということが子ども達に分かってもらえたということが、この授業の大きな意味だと思います。

自分達の近くにもヒーローがいるということがわかった子どもがたくさんいたということ、そしてこういう大人に近づきたいと思った子どもがたくさんいたということが、豊かな心の育成につながるのではないかと思いました。

（委員）

［こんな大人になってほしい］というところに結び付けて、座間にはすばらしい先人がいるということを子ども達に伝える手段として、この「郷土の先人に学ぶ」を発行しました。座間の歴史に触れる良い機会であり、これからの未来を担う座間の子ども達に「ふるさと座間」を誇りに思えるような豊かな心が育つよう、これからも作り続けていきたいと思います。

市民の皆様にも多く広まっていくよう考えていきたいと思います。

（市長）

それぞれの子ども、家庭が郷土愛を持つための手段として、この教材が役に立つと思います。現在、座間市は人の出入りが多いというベッドタウン特有の人口動態となっています。郷土愛を持つために、具体的事例の共有は大切です。どのような大人になるかは誰もが親として自分の子どもに期待するところです。その一番大事なところを基礎自治体である座間市の中で教育委員会の皆様と市長部局とで行っていけることは大変すばらしいことだと思います。伝統ある座間のまちにはたくさんの先人達がおります。それを将来の座間を担う子ども達に、私達が責任と自信を持って示すことによって、座間の更なる発展、子ども達の将来の健全なる発育が望まれると思います。

続きまして、案件⑵国際親善大使について進めてまいりたいと思います。

まず私からこの「国際親善大使」をはじめることになった経緯と目的についてお話させていただきたいと思います。

昭和６３年１１月、当時座間市に大きな工場がありました日産自動車が、アメリカ本土への工場進出の先駆けとして、テネシー州スマーナ市に工場進出を行いました。その当時、国際姉妹都市推進会議という組織に属しておりまして、そういったことからスマーナ市に視察に行ったのですが、とにかく驚くことばかりで、なんと素晴らしいところと御縁ができたのだろうと痛切に感じ、今後国際姉妹都市としての友好関係が座間市となされれば、非常に素晴らしいことだと強烈な思いをもって帰ってきました。

以後、市制２０周年を機に、スマーナ市と国際姉妹都市協定の締結を行い、その後、座間市において国際交流協会が立ち上げられ、スマーナ市と座間市との中学生、高校生を対象にしながら、ホームスティをし合うという事業がなされてきました。これまでに一定の成果がありましたが、私が市長に就任してから、スマーナ市と座間市との交流事業を見ていると、両市に温度差があることを実感しました。スマーナ市は日本の座間にホームステイをしたいという子供を募って、モチベーションを高め、ホームスティに行くことを一つの契機に学習の場とし、さらには日本に行くための費用については、自分達がボランティアをしたり、主体的になってしっかり形を作っていくことを、複数年以上に渡って取り組んでいるという事実がわかりました。座間市においては、当初予算の中で事業をスタートし、夏休みに学生をアメリカに送り出すという極めて時間がない中で、動機づけが深くできていない中でこちらの代表として、スマーナ市にホームステイをさせることがあり、地域社会に住まれる方との家族としてのふれあいをして行くにあたって、しっかりと動機づけをし、座間の代表、日本の中学生、高校生の代表の一人として恥ずかしくなく、形作って送り出してあげたいという考えに至りました。

現在、昨年の秋にノミネートされた生徒の中から、国際親善大使として選ばせていただいて、さらに継続して研修を続けております。これまでの研修とは打って変わったような相当

な動機づけができた子供達をスマーナ市に派遣することが叶うと思います。

中学生、高校生の派遣事業から国際親善大使という冠をつけて生徒達をスマーナ市に派遣するという事業を通して、国際理解を進めていくことを成していきたいと思っています。

（交流・基地対策係長）

それでは、私からは、国際親善大使と名付けた理由と、具体的な見直しについて御説明したいと思います。

今年、スマーナ市に派遣される学生を「国際親善大使」と名付けました。

このように名付けた理由は、自分達が座間市の代表であるという意識をしっかりもってもらいたいということ、そして派遣に行って終わりではなく、派遣後も、座間市とスマーナ市をつなぐ架け橋として活躍してもらいたいという思いから、このように名付けさせていただきました。

スマーナ市と協議し、この交流事業をさらに発展させるために、新しい組織として、スマーナ交流委員会を立ち上げました。この委員会には、小学校校長会会長、中学校校長会会長、教育指導課、教育研究所など教育関係者の方もメンバーとして入っており、より教育的な視点を加味し、先生方の教育的指導も入った中で、事業を行うこととなりました。更にこの事業の実動部隊として、実行委員会も組織し、教職員の方や、市の職員など、多くの人がこの事業に関わることができるようになりました。この大きな見直しによって、従来の事業サイクルが、休止・派遣・受入だったところ、休止の年に「研修」を１年間かけて行うことが可能となり、教育的な部分を多く含んだ研修プランやボランティア活動を行うなど学生のモチベーションを高めていくことができるプログラムに変更していくことができました。

このサイクルによって、今年を「研修」の年と位置付け、４月に国際親善大使の募集を行いました。２０人の募集枠に対して、中学生２１人、高校生１８人、合計３９人の応募がありました。そして、６月から９月までの間で、グループワーク３回とひまわりまつりボランティア活動、面接、筆記試験を行い、その都度、評価を行いました。評価は、スマーナ交流委員会委員や実行委員など、多くの人の目で行い、グループワークとボランティア活動、面接試験、筆記試験の総合評価で国際親善大使２０人が選ばれました。

選考に関して従来と大きく変わったところは、面接試験では日本語は一切使わず、すべて英語で会話し、英語力やコミュニケーション能力を中心に評価した点です。特に英語が分からなくても、日本語を使わずに会話をしようとする姿勢を持てるかどうかなども確認しました。また、応募から選考までのすべての研修に関わった実行委員が、選考委員として選考に関わったことも、従来との大きな違いであると思います。選考後、１０月のオリエンテーションでは、市長から国際親善大使の任命書が手渡され、国際親善大使とはどのような人なのかが説明されました。

お手元に配布しました「国際親善大使とは？」のチラシを御覧ください。

座間市が求めている国際親善大使について、４つにまとめてみました。

１つ目、スマーナ市の人に自分や座間市のいいところをどんどん紹介しようとする人。現在、研修で自分発信、座間発信という課題に取り組んでいます。異文化コミュニケーションには、受動的な態度ではなく、能動的に自己を発信していく能力が求められると考えています。また国際親善大使の役割として、座間市について発信することが求められるため、積極的にスマーナ市の人に発信していきます。

２つ目、スマーナ市のことをもっと座間市の人に紹介したいと思う人。これは、座間市のことをスマーナ市の人に発信するだけでなく、スマーナ市で体験したことを座間市の人にもどんどん伝えていくというものです。スマーナ市を知らない人にも興味を持ってもらえるように、自分達がスマーナ市と座間市の懸け橋になる役割を持ちます。

３つ目、言葉、文化の壁があっても頑張って伝えようとトライできる人。スマーナ市に行ったら、国際親善大使は、全員ホームステイをします。言葉も生活もすべて異なった場所で２週間を過ごさなくてはなりません。そんな環境でも、なんとか相手とコミュニケーションを取ろうと、ジェスチャーや筆談でもいい、どんな形でも伝えるということを諦めない気持ちを持ってもらいたいと考えています。

４つ目、困っている人に進んで手を差し伸べられる人。これは、国際親善大使としてということ以前に、人として、困っている人に声かけできる人になってもらいたいということです。スマーナ市に行ったら、国際親善大使２０名での集団行動が多くなります。年齢も性別も異なる人が集まっています。この中で困っている仲間がいた場合、進んで声かけができる人になってもらいたいと考えています。

この４つの目標は、とても大きな目標ですが、この思いを全員が共有できることが大切だと考えていますので、この４項目を自分達の役割として全員が理解し、説明できるように研修の中で伝えていきたいと思います。

続きまして、現在行っている研修の様子について御説明したいと思います。

（渉外課長）

オリエンテーション後から今後の活動までの御報告と御説明をいたします。

研修は、御覧のように毎月１回のペースで開催しています。５つのグループに分かれて、役割の抽出と分担や大使としてできること、やりたいことをグループ内で検討をしたほか、自己発信の充実のために英語による自己紹介の練習や座間市を紹介するパワーポイントの作成とその発表などを実施しています。写真は、大使の自主性を重んじて進行する研修の様子で、各グループにはファシリテーターとしてスマーナ交流委員会、実行委員会、委員である先生方や市職員が付いて、充実した研修が行われています。この写真は、各自が作成したパ

ワーポイントを前と後の２つに分かれて発表しているところです。発表後はそれぞれの評価を行い、より良いプレゼンテーションができるよう改良に努めました。これをもとにグループごとに英語版のパワーポイント作成にも取り掛かりました。

次に、ボランティア活動については、１２月１６、１７日の２日に亘って開催された在日米陸軍軍楽隊によるクリスマスコンサートにおいてスタッフとしてボランティアを行いました。スマーナ市の子供達が、座間に来るために洗車やイベントでの販売などを手伝っている点を参考に、今回初の試みとして実施しているもので、コンサート当日は受付、パンフレットの配布､座席への誘導､館内放送での案内など各自が与えられた役割を全うしていました。

また、このコンサートは、キャンプ座間で働く皆さんとその家族の慰労を兼ねていることから、ネイティブ英語に接する良い機会にもなりました。写真は、入場の際の受付の様子です。

次に、研修発表の報告です。１月２８日に開催された国際交流フェスティバルの時間を頂戴して、当日出席することができた親善大使が自己紹介と英語版のパワーポイントによる発表を行いました。お手元にあります「座間について知ろう」が印刷したものです。大使達はこの日に合わせて練習した成果もあり、司会をしていた大学生が「今の中学生・高校生の英語力はすごい。」と驚嘆するほどでした。その後のポットラックパーティーやイベントにも参加し、同世代の外国人達と談話を楽しんでいました。写真は、パワーポイントを使い英語で座間市の大凧を説明しているところです。

今後の予定については、３月までに英語版のパワーポイントを完成させ、４月に発表したいと考えています。また、もう一度、国際親善大使のなんたるかを反芻したうえで、スマーナ市を訪問しての出し物の練習や渡航の注意、英会話など、より実践的な研修を行っていく予定です。また、３月２７日にはキャンプ座間に所在するハイスクールの生徒さん達との交流や、４月２９日の緑化まつりでは、スマーナ市へ国際親善大使として訪問する旨の発表を来場者の皆さまにいたします。

スマーナ市への訪問は、７月３１日から８月１３日の２週間で、１泊のホテル宿泊を除いては、スマーナ市の各家庭にホームステイすることになります。滞在中の日程は今後詰めていくことになりますが、座間市をＰＲする「座間フェア」、個々に打ち込んできたものや日本の文化を伝える「Show & Tell」を日程に組み込んでもらえるようスマーナ市へ伝えているところです。

座間市に戻ってきてからは、報告書の作成をはじめ、各小学校や青少年健全育成大会など大勢の方が集まる場で報告会を開催したいと考えています。また、今後のイベント等にも折を見て姉妹都市スマーナ市を広めていってもらいたいと考えています。

国際親善大使の活動については、座間市ホームページに掲載してまいりますので、「国際親善大使」で検索し御確認いただきますようお願いします。また、今後とも教育面でのバック

アップをよろしくお願いします。
　御清聴ありがとうございました。

（委員）
　小、中学校の授業に参加する機会というのがたくさんありますが、生徒ひとりひとりが自らの考えを述べ、またお互いにその考えを受け入れあって、そしてまた各々の考えを広げたりする様子を目にすることが増えています。授業につきましても、どの教科においても思考力、表現力、判断力を育むための活動の充実、あるいは学習内容を実生活あるいは実社会と関係付けるなど大変に創意工夫がされており、生徒ひとりひとりが親善大使としての基礎ができてきているように感じました。今後はより素晴らしい親善大使が出るのではないかなと思っています。

（委員）
　担当からの感想は大変だったということですが、子ども達の可能性を引き出す取組だと思います。

（委員）
　向こうとの付き合いや生活の場で密着してくるという経験は大切です。この成果を持って帰った子ども達が、一般の子ども達にいかにして広めていき、またその子ども達の問題意識を高めるかが重要だと思います。スマーナ市との交流で持ち帰ったものをどのように広めていくかというところを頑張っていただきたいと思います。

（委員）
　国際交流への関心は高くなっていると思います。外の世界に興味が湧く時期の子ども達にこういった機会を与えるということは、素晴らしいことだと思います。子どもが国際親交において先陣を切るということは、大人が行うよりも効果があり、また影響も大きいです。計画的にやってほしいと思います。
　一部の子どもだけで終わらせないで、他の人にも伝えていく良い循環を今後期待しています。

（委員）
　座間市のＰＲもですが、スマーナ市の文化や伝統もしっかり学び、親善大使としての使命を果たして欲しいと思います。
　戻ってきてからの感想や報告も楽しみにしています。

（市長）

市長部局、担当課にとって、委員の皆さまの御意見は非常に力になると思いますし、勇気をいただきました。

座間の子ども達が成長する過程において、人とどのように接していくのか、ＳＮＳの普及で、目に見えない環境の中での子ども達同士でのコミュニケーションが、非常に大きな課題となっています。国際語である英語を習得していくことも大きなテーマの一つであると思いますが、それ以上に、言葉よりも相手とコミュニケートするのは、人間の五感によるものであり、それを言語が異なる人と付き合う中で感じ取るということが大事だと思います。

これから事前準備をしていく中でモチベーションを高め、先方に行き大きな収穫を得て帰ってくると思うので、これを座間の子ども達みんなでシェアできるような仕組づくりを次に考えていきたいと思います。

本日の内容は以上でありますが、次第３「その他」として、何か取り上げたいことなど、ございますか。

特に無いようでございますので、進行を事務局に返します。

（企画政策課長）

本日はお忙しい中、御協議をいただきましてありがとうございました。

本会議の会議録につきましては、１か月程度を目途に市のホームページ上で公開させていただきたいと思いますので御了承ください。また、次年度の総合教育会議の開催スケジュールにつきましては、決定次第、追って御連絡いたします。

以上をもちまして、平成２８年度第１回座間市総合教育会議を閉会いたします。皆様、お疲れ様でした。